



2016年7月22日(金)~24日(日)

金峰山 · 瑞牆山 初日：金峰山登頂

Report by Kumamoto

クマさん会発足して 20 周年記念登山の一つとして、クマさん会発足後、複数のメンバーで最初に登った百名山は 1996 年 9 月 6_7 日の瑞牆山であった。それに因み、20 周年記念として、金峰山~瑞牆山の縦走を企画した。参加者は川島さん、中島さん、布目さんの女性 3 名に、高橋(文)さん、高橋(雄)さん、根岸さん、堀さん、吉松さん石井さん、熊本の男性 7 名の計 10 名である。更に現地で思わぬ突然参加があった。





高尾駅から堀さん、川島さん、吉松さん、布目さん、熊本の5名が乗車し塩山駅に8:44 着した。

既に高橋（雄）さんは早い電車で到着していた。



予約しておいたタクシー2台に分乗し、大弛峠に向かう。約70分で12,000円だった。



大弛峠は塩山側の山梨とその先の長野（川上村）の県境になっている。山梨では金峰山を「キンブサン」長野では「キンポウサン」と呼ぶ。

山と高原地図では両方記載されている（2016年版）。

日本百名山



特急で来た中島さん、石井さん、根岸さん、高橋文さんが、8:53に到着し、これで10名全員が揃った。八王子辺りまで降っていた雨は上がっていた。



標高2365mの大弛峠は、したたかな雨で、早速、雨具を装着する。（10:15峠到着）



塩山側から見て右方向に国師ヶ岳、奥千丈岳、甲武信ヶ岳への登山口あり、左手に朝日岳、金峰山への登山口がある。



全員雨具を身に着け大弛峠で出発前の記念写真（合成版）



10:23 登山スタート。朝日岳経由金峰山まで 3.8Km で、標高差約 250m しかないが、途中にアップダウンがあり、累積標高差は 450m 位か？



霧雨程度で雨足は弱いが、シラビソ樹林帯の登山道は、泥濘で靴がドロドロには参った。

岩盤状の登りなどを繰り返し、先に進む



スタートから約40分歩くと、ハクサンシャクナゲの花が現れ、雨中山行での癒しだ



11:05 朝日峠(2400m)に到着した。小さなアップダウンで標高は稼いでいない



朝日峠からは朝日岳へ急登が続く



露岩の稜線に出て展望が良いはずだが濃いガスで視界が全くなく、残念！ (11:45)

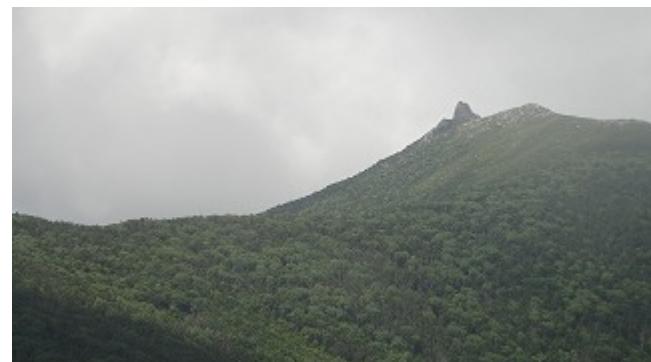
晴れていれば、富士山、奥千丈ヶ岳、国師ヶ岳が見えるはずだ。



11:55 朝日岳（2579m）に到着。石井さんが持つ「国師岳」の指示標は立派だが、肝心の朝日岳の標識は手書きで、石井さんの右手側の木に紐で簡単に結わえているだけで、何とも侘しい。



2010年8月に雄さん、田上さんと登った時には、写真のような立派な標識があったが、朽ち果てたのか、跡形もなかった。
この標識では標高 2581m とあり 2m の差がある？



朝日岳から展望が良いのだが、濃霧で視界なく、濡れたベンチに座り昼食にした（12:00）

晴れていれば、金峰山頂五丈石（岩）を正面に眺めながらお弁当を食べられたのだが・・・



12:20 金峰山に向かって一旦大きく下る

ハクサンシャクナゲが雨粒に濡れて輝きを増す



シラビソの樹林帯を黙々と歩く、時々上空から陽が射しこみ天候は回復の兆しだ。



下り切り平坦な鞍部(2460m)に出ると、そこはバイケイソウが群生しており、緑白色の花が咲いていた。
(12:44)



12:55 鉄山（2531m）の麓に到着した。朝日岳から標高約 100m 下った。天候も回復基調にあり、ここで雨具を脱ぎ、軽装になった。



鉄山からはイヨイヨ金峰山への最後の登りになる。シャクナゲが密集した登山道が続く



13:30 森林限界を超えて山頂に続
く平坦なガレ場の稜線（賽の河原）
にでた。（金峰山東肩）



金峰山頂を背景に賽の河原で集合写真だ（合成版）



写真を撮って西方の山頂を目指す。
山頂までは大きな石が重なった道で
石を渡り歩きながらの稜線漫歩だ。
当然、両手、両足でバランスを取り
ながら・・・・・



金峰山山頂に立つには、この大きな石を幾つも越えていかねばならない。



大きな石が天板となったトンネルを抜け出ると、金峰山頂標識が眼の前にあった。



13:54 金峰山山頂（2599m）に到着した。雨もあがり笑みがこぼれる。

*金峰山は山頂に蔵王権現を祭り修験道のメッカとして尊ばれた信仰の山だったそうだ。



山頂の更に先端によりじ登り、
「ヤッター」



石井さんが担ぎ上げた赤ワインで登頂を祝し「カンパニー！」



山頂のすぐ前に巨大な五丈石(岩)がある。

日本百名山の著者 深田久弥氏は本書で「秩父の最高点はこれよりわずか数m高い奥千丈岳に譲るとしても、その山容の秀麗高雅な点では、やはり秩父山群の王者である」と評している。



五丈石(岩)の突先まで登ろうとトライしたが、垂直の壁で下りがリスキーなため、中段の辺りまでで諦めた。

石と人間を対比し石の大きさが測られる。

正に巨大な殿堂だ！

*昔岩陰から鏡や刀剣等修験道に由来する遺物がでたそうだ。



五丈石(岩)から標識に従って「金峰山小屋」へ下る。真下に金峰山小屋の屋根が見えてきた。



山頂からは大きな石が重なった登山道で、実に歩き難い。慎重にユックリ下り、15:00に小屋到着。

本日の宿泊者は15名のみとのことで、我々10名の他に、単独の男性と家族連れ4名だけだ。



荷物の整理を終えた男性陣から談話室に集まり、宴会が始まった。



次々に女性陣も加わり、話に花が咲いていると・・・・

16:19 に突然、熊本の携帯が鳴った。見ると田形さんからだ。明日朝からトレーニングで瑞牆山荘から金峰山山頂を日帰りピストンで、途中で我々に合流し瑞牆山荘に泊まるという。 ハプニング ウエルカムだ！



夕食は 17:30 からで、全員揃って、「頂きまーす！」
白ワインで乾杯！
メニューはワンプレートに盛られているが、チキンステーキ、ポテトサラダ、大盛生レタス、赤肉メロン等、特筆は白ワインだ・・・
お替りは全く異なる甘・辛 2 種類のカレーライスと中々ユニークなメニューで特徴があって宜しい。



夕食を終え、2階に上がり、フカフカの羽毛布団にもぐる。明日の晴れを期待し、田形さんと何処で遭遇するかなど思いながら眠りについた。